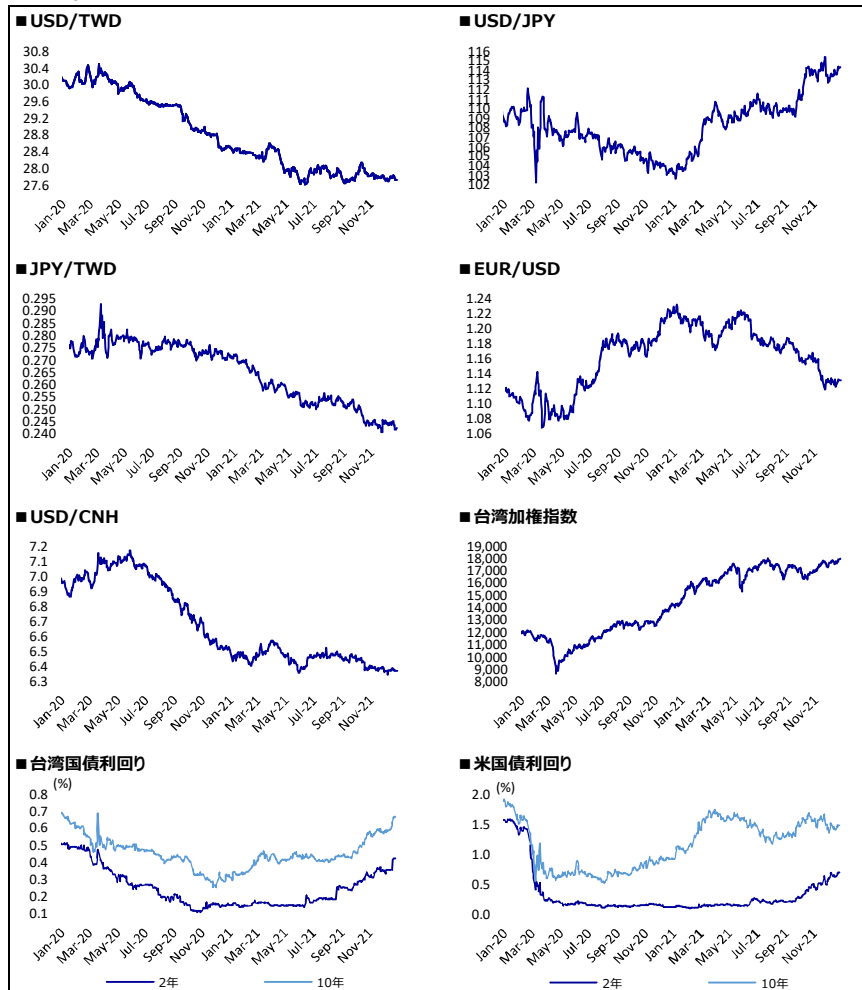


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初12/20は27.800でオープン後、オミクロン株の世界的な感染拡大からリスクオフの流れとなり、台湾株安からの台湾ドル安で一時27.860まで上昇。12/21は台湾株も堅調に推移し、外国人投資家の台湾ドル買いも増え、ドル台湾ドルは27.82付近まで下落。12/22も堅調な台湾株と輸出企業のドル売りにより、27.80付近まで低下したものの、クリスマス休暇を控え下値を追う動きとはならなかった。12/23はオミクロン株への警戒感が和らぐ中、リスクオフムードが後退し、台湾株が上昇すると27.75付近まで下落。12/24も引き続きリスクオフムードが和らぐ中、台湾加権指数が5か月ぶりに18,000ポイント台にのせると台湾ドル買いが優勢に。一時27.718まで下落したが、その後はクリスマス休暇で取引が減る中、27.73付近で推移。最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.738で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は195.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初12/20は113.69でオープン後、オミクロン株の世界的な流行からリスクオフの流れとなり、円買いが優勢に。また、対ユーロのドル売りや米金利の低下から一時113.33まで下落。しかし、翌日の米20年債の入札を警戒した動きから、米長期金利が上昇すると、ドル円も113円台後半に戻した。12/21は材料出尽くし感から、方向感なく狭いレンジで推移していたが、リスクセンチメントが改善すると株高債券安の流れとなり、ドル円は114円台前半まで上昇。12/22はクリスマス休暇を前に動意に乏しく、114円台前半の狭いレンジで推移。12/23もクリスマス休暇を控え動意に乏しく、114円台前半の狭いレンジで推移していたが、米国でのコロナ経口薬の緊急承認やオミクロン株の重症化率の低さの報道等から過度なオミクロン株への警戒感が和らぐ中、株高債券安の流れに。米金利が上昇する中、ドル円はじり高の展開となり、114円台半ばまで上昇。12/24は調整の動きもあり一時114.51まで上昇したが、クリスマス休暇で動意に乏しく、狭いレンジでの推移となった。最終的に先週比0.5%ドル高円安の114.30で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.650-27.820
コロナ感染者の拡大は続くものの、相場への影響は現在は限定的である。年末にかけての輸出企業のドル売りも増えると予想されるため、今週は台湾ドル高の流れとなるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.00-115.00
クリスマス休暇で流動性が減っているが、年末にかけても引き続き流動性が乏しく、レンジで推移すると見込む。ただし、コロナ関連の報道等、突発的な材料に対しては相場は動きやすくなるため、警戒はしたい。

今週の予定

12/27 (MON)	
12/28 (TUE)	
12/29 (WED)	
12/30 (THU)	米新規失業保険申請件数
12/31 (FRI)	台湾・日本休場

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。